

橋などの構造物を管理する 新モニタリングシステム開発で経営革新

課題

技術は優れているが 戦略的な経営計画がない

取手市に本社を置く株式会社KSKは、構造物の維持管理サービスを行う企業である。構造物の維持管理業務とは、国が管理する橋梁やトンネルといった構造物の維持管理を大手ゼネコンやコンサルタント企業が請け負うものである。同社は、大手企業から業務を受注しており、これまで主に関東や東北、北海道、北陸における約2000件におよぶコンクリート構造物（橋など）の維持管理サービスを手がけてきた。

こうした橋やトンネルなどの構造物の多くは、高度経済成長期に建設されたもので、20年後には建設後50年を経過するものが63%にまで達するとみられ、今後、大規模な補修や更新が増加することが予想される。これにともなない、同社のような点検業務についても高精度かつ低コストの技術開発が求められている。

このような状況のなか、同社は、できるだけ安価で、歪みやたわみなどの変化を定量的に測定する仕組みが重要と考え、新たなモニタリングシステムの開発に取り組んでいた。それは、光ファイバセンサのなかでも安価に入手できるFBGセンサを活用したもので、価格競争力に優れ、コンクリート構造物の踏査点検という社会的要請に応える付加価値の高い計測サービスである。

しかし、同社は、維持管理の技術力を強みとする技術者集団であり、新技術の実用化にあたっての経営計画を策定しておらず、戦略的な事業展開について課題を抱えていた。

支援

経営革新計画で 3年間の計画を策定

取手市商工会が同社から、新モニタリングシステムの開発に必要な機械装置があると相談を受けたのは、2014年のことだった。そこで商工会では、ものづくり補助金の情報を提供。すると同社より、申請に向けた事業計画の策定を依頼された。そこで、策定支援にあたって、事業計画についてのヒアリングをしてみると、開発中のモニタリングシステムに革新性があったため、経営革新計画を策定し、承認を目指すことを提案。実用化と販売展開について3年間の経営計画策定を支援した。

こうして2015年から同社では新技術を使ったモニタリ



開発した新モニタリングシステム

ングサービスを提供。開始初年度は1件だったものの、年々その数は増えており、着実に受注を伸ばしている。その結果、売り上げも計画に定めた目標をおおむね達成。また業界内における同社の技術力の認知度や信頼度も向上。営業面においても好循環が生まれている。

さらに、同社は2018年、空港滑走路などのアスファルト構造物に対応した新サービスの調査依頼がくるようになったことから、その新サービスを提供するため、ものづくり補助金の計画書や経営革新計画の策定を行った。

支援の経過

期間	支援内容
2014年4月～5月	ものづくり補助金・経営革新計画の策定支援
2018年1月	経営革新計画の策定支援
1月～4月	ものづくり補助金の申請支援
11月	展示会などへの出展支援

会社概要

会社名：株式会社KSK
 住所：茨城県取手市新町1-2-35
 電話番号：0297-70-5961
 URL：http://www.k-s-k.co.jp
 代表者名：山下英俊
 創業年：2003年
 従業員数：88名
 商工会名・担当者名：取手市商工会・小松原崇